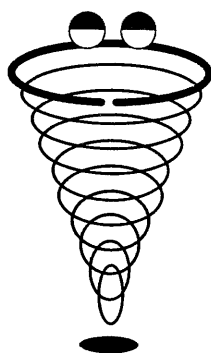
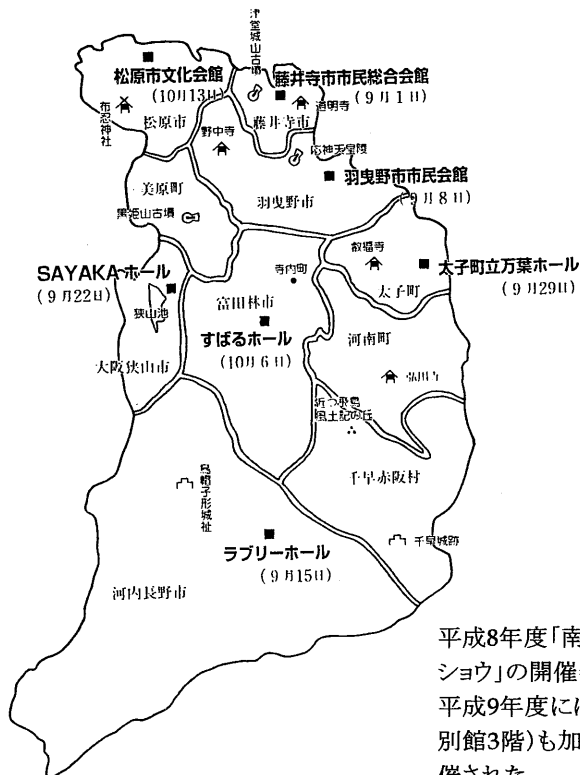


南河内文化会館連絡協議会(南文協)



1997

※シンボルマークの意味
このシンボルマークには水面から広がる波紋が10あり、南河内の10市町村を表します。伸長く層を組み合ってお互い上昇しようという意味が込められています。



平成8年度「南河内歴史発見
ショー」の開催会場地図。
平成9年度には美原町(役場
別館3階)も加わり8会場で開
催された。

設立年	平成4年4月
地域	大阪府南河内地域
ジャンル	特に限定なし
設立の経緯・目的	昭和55年に南河内地域広域行政推進協議会(南広協)を設立し、圏域発展の指針ともなる南河内地域広域圏計画を策定。その後、平成2年に第二次広域行政圏計画において圏域の将来像を「豊かな自然と歴史の中で、新しい都市文化が息づく“ふれあい創造の郷”みなみかわち」と設定。その施策目標のひとつとして大阪都市圏にありながら大都市にはない風格と魅力ある圏域を創造し、“ふれあい”をテーマとする生涯学習の推進と幅広い交流・情報発信の場として整備することを目指した。 これを受けて、平成3年に「ふれあいネットワーク計画(文化会館のネットワーク計画)」を策定し、既設館を含む文化会館等6館をネットワークさせることで、圏域全体の文化振興を目指すこととした。翌年、南河内文化会館連絡協議会の設立に至る。南河内地域における劇場・ホールの急増も背景にある。
事業内容	リレーイベント「南河内歴史発見ショー」の開催(平成5年度より継続的に開催している) ——同一テーマで各館持ち回りのリレーイベント。各館、地元の歴史に関する講演会と演劇や伝統芸能などの公演がセットになっている。同イベント開催にともなう定例会議も実施。
加盟機関数	8団体(平成9年現在)
加盟機関属性	公共ホール
活動経費	年会費 各館 50,000円 リレーイベント参加経費 各館 900,000円
公的助成	財団法人大阪府市町村振興協会からの補助金を、参加各館個別に申請している。
事務局	大阪狭山市文化会館(SAYAKAホール) 大阪狭山市狭山1-875-1, Tel.0723-65-8700

南河内文化会館連絡協議会

ヒアリング記録

1997/10/30

大阪狭山市文化会館(SAYAKA ホール)

財団法人 大阪狭山市文化振興事業団 | プロデューサー 村地孝明氏, 総務課長 尻谷 実氏

SAYAKA ホールの概要

- 施設概要 | 大ホール(1,208 席)、小ホール(368 席)、コンベンションホール、大会議室、中会議室、文化情報コーナー、展示ホール、ほか
- 平成 6 年度開館
- 主な事業内容 | ①各種文化事業の企画および実施(平成 9 年度は、演劇、ジャズ、ポピュラーコンサート、クラシック、バレエ、オペレッタなど 16 本の自主事業を実施)、②文化情報の収集及び提供、③大阪狭山市文化会館の管理並びに文化事業の受託(SAYAKA ホールの管理業務のほか、市民文化の育成、広域行政に至る文化活動を推進するための受託事業を、平成 9 年度は 9 本実施)、④大阪狭山市市制 10 周年記念事業の受託(市制 10 周年記念事業の一環として、クラシック公演、NHK テレビ番組公開録画など 3 本の事業企画および制作を実施)、⑤その他目的を達成するために必要な事業
- 予算 | 主な財源は、1:基本財産運用収入(約 240 万円)、2:事業収入(自主事業収入、駐車場収入、レストラン収入、舞台・照明・音響技術者派遣委託料収入など)5,314 万円、3: 補助金等収入(施設管理事業収入、市補助金、受託事業収入)40,699 万円、4: 寄付金収入など。

1. ネットワーク活動の概要

(1) ネットワーク活動の経緯・目的

- 南河内地域には、富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村、美原町の 10 市町村があり、これらが地域の共通した課題に対応するとともに、各市町村の個性を活かしつつ調和のとれた特色ある住みよい地域づくりをめざして、昭和 55 年に南河内地域広域行政推進協議会(通称:南広協)を設立し、圏域発展の指針ともなる南河内地域広域圏計画を策定してきた。
- 平成 2(1994 年)年度には第二次広域行政圏計画において、圏域の将来像を「豊かな自然と歴史の中で、新しい都市文化が息づく“ふれあい創造の郷”みなみかわち」と設定している。その施策目標のひとつに大阪都市圏にありながら大都市にはない風格と魅力のある圏域を創造し、“ふれあい”をテーマとする生涯学習の推進と幅広い交流・情報発信の場として整備していくことを目指している。
- このため、平成 3(1995)年に「ふれあいネットワーク計画(文化会館のネットワーク計画)」を策定し、既設館を含む 6 市の文化会館等を有効にネットワークさせることで、圏域全体の文化振興を目指すこととした。

- 『南河内文化会館連絡協議会』(通称:南文協)の設立は、近隣地域に劇場・ホールが急増したことが背景にある。例えば、既存の羽曳野市市民会館(設立:昭和44年)、藤井寺市立市民総合会館(昭和48年)、松原市文化会館(昭和52年)に加え、平成3年に富田林市のすばるホール、河内長野市のラブリーホール(河内長野市文化会館)が開館している。平成4(1996)年4月になって規約ができ、SAYAKAホールはその後参加している。当初から中心的な役割を担っているのは、藤井寺、羽曳野、松原各市のホールで、いずれも古くからあるホール。
- ネットワークによる活動は、同一地域内で企画がバッティングすることを避ける目的もある。また、各ホールの個性を出すために、大阪狭山市は演劇、河内長野市は音楽、富田林市が科学と音楽、などといったようなテーマを個別に設定している。

「ふれあいネットワーク計画」より(平成3年3月)

圏域の概況

本圏域は、大阪府の東南部に位置し、北は大和川を境に大阪市及び東大阪地域に、西は泉州地域に、東から南にかけては金剛山系・和泉山脈をへだてて奈良県・和歌山県につながっており、面積は大阪府域の約16%(総面積303.14平方キロ)、人口は約66万人を擁している。

本圏域は、我が国有数の大都市である大阪市に近接しているため、高度経済成長期以降、主に鉄道沿線や丘陵部において大幅な人口増加を示し、大都市圏の近郊住宅地として発展してきた。

一方、圏域中部から広がる河内平野には、石川を中心として古くから農地が拓かれ、現在も都市近郊型農業が盛んで府民の食料供給基地として重要な役割を担っている。

また、本圏域は、古来よりたびたび日本史の舞台となった地域であり、古墳群、神社・仏閣や近世の町並みなど古代から近世にかけての重層的な歴史環境を有している。

大都市近郊にありながら自然環境に恵まれ、歴史文化遺産が豊富な本圏域は、教育環境の面からも注目され、現在では大学や研究機関が立地する文教地区としても重視されてきており、大阪府総合計画においては、「教育文化ゾーン」として位置づけられている。

(2) 具体的な活動内容

- リレーイベント「南河内歴史発見ショウ」は、平成7(1995)年から始まった。新しいホールが出そろったところで、具体的な共同事業の実施に至っている。
- リレーイベントの企画の発端は、平成6年の主催者会議。そこで案が持ち寄られ、具体化した。地域性を重視していたことと、平成6年、7年度は河内長野市のラブリーホールが会長館で、この地域が古代から歴史の町であったことなどから、“歴史”に関する事業を行なうことになった。
- 南文協の定例会議は、館長会議が2月に1回、担当者の会議(主催者会)が月に1

回。ここで具体的な事業の中身が検討されている。平成8年、9年度はSAYAKAホールが会長(事務局役)を務めている。

- リレーイベント開催に際し、南文協のシンボルマークをつくった。リレーイベントの際、イベント開催地の市長から次の担当市長にこのシンボルマークの入った旗の授与式がある。これで“リレー”の雰囲気盛り上げた。
- 第1回目は、一人の講演者が参加全6館をまわって各々の地域にちなんだ話をした。個々のイベントの構成は、初回の場合、①共通講師である浜村淳さんの講演、②6つのホールの土地ゆかりの歴史について専門家の講演、③各館異なる公演(演劇、伝統芸能、コーラス、芸能など)、となっていた。
- 翌年度(平成8年)は、一人の共通講師が全ての館をまわることが難しいとの反省から、その部分を二人の講師で対応することとした。参加館は7館。基本的な構成は平成7年度の初回と同様。
- 平成9年には、参加館が8館に増えた。
- 各々のホール特性を出そうということになり、また①共通講師+②個別の講師という構成・フォーマットもイベントの時間として長すぎるという声もあり、共通講演部分をやめて、①専門家の話+②公演・パフォーマンスという構成に変更した。

(3) 参加各ホールの役割分担、運営方法

- 各々のイベントの制作は、開催各館で担当する。講師の交渉も含む。
- リレーイベント全体(共通)のチラシもあるが、それだけでは不十分と判断するホールは、個別に自ホールで開催されるイベントのチラシを制作している。SAYAKAホールもリレーイベント用のチラシは独自に作成している。
- 会長館は、定例会議の座長を務めるだけでなく、財政面の管理・調整、次年度の企画、日程調整、全体構成、議事録作成、全体チラシのデザイン・制作、プログラムの制作、プロフィール・写真の入手、チケットの制作・販売、などなどさまざまな業務を引き受けている。
- 参加館のなかに、市町直営館と財団運営館があり、運営方法や予算の支出の違いで対応に時間がかかることがある。直営館には、財団運営館にはない行政特有の仕事の進め方があるため、足並みがそろにくい。

(4) 経費負担および公的支援の活用状況

- ネットワーク活動の経費については、平成9年度南文協館長会議の経費として各館年間5万円、リレーイベントの参加経費として各館90万円を負担している。
- リレーイベントの売り上げは、共通券については一旦事務局でプールして、最後に各館均等に分けられる。各館ごとの単独入場券は、各館の売り上げにしている。共通券(パスポート券)は、すべての会場に入場できるもので、単価2,500円。今年度は130,000円の売り上げがあったので、52枚売れた計算になる。各ホール同士の距離としては、富田林市のホールを中心に各ホール30分程度。リレーイベントで全てのホールをまわるとは、時間的・距離的にはそれほど大変なことではない。
- 各館から徴収している90万円の負担金は、共通チラシ、パンフレットの制作など、共通部分の経費として使っている。
- 南文協の事務局としては、毎年経費をプラスマイナス・ゼロになるように務めている。こ

これは、南文協が現時点では任意団体であることから、税金問題も関係している。

- イベント毎の各館の予算構造としては、① 90 万円ずつの負担金、②(財)大阪府市町村振興協会等からの補助金、③各館独自予算、があり、総事業費はチケット収入と各館負担分の合計。②の補助金については、各館個別に申請している。

2. ネットワーク活動の効果、問題点・課題等

(1) ネットワーク活動による効果

- 「リレーイベント」を通じたネットワーク活動の効果としては、“南河内”という地域がひとつというような気になることが挙げられる。リレーイベント以外でも日常的に担当者が情報交換できるようになった。
- 実際、大阪狭山市は市民の半分が以前からこの地域に住んでいる人達、もう半分が大阪市のベッドタウンとして近年居住をはじめた人達。この二つの層にギャップがある。「リレーイベント:歴史発見ショー」に参加することで、新しい住民は各市町村の歴史を発見し、昔からの市民も当該市の歴史を再認識できるという意味で、非常に意義のある事業だと思っている。ニュータウンと旧地区がまざりあい、共通の話題をつくりだせることが重要。
- また、近隣市町村の歴史についてもあわせて学ぶことで、お互いの歴史を通じて「横」にも「過去」にも目が開かれていく。そうすることで、「将来、この町をどうするか」という考えに至ると思っている。実際、その場所に行ってみないとわからないことはたくさんある。
- 「リレーイベント」への参加各館によってメリットは異なるかもしれない。

(2) ネットワーク活動の問題点・課題

- 今後の課題は、「リレーイベント」の継続性。いつまで足並みをそろえて事業ができるか、継続してやっていけるかが問題。特に参加ホールの中で比較的小さい市町村が、継続して参加できるような仕組みづくりが必要かもしれない。

(3) 将来的な展望について

- 「リレーイベント」は、テーマ的には来年も継続していく予定。これまで進めている“歴史”という観点以外に、8 館に共通していて、かつ地域に密着したテーマというのは他になかなか考えにくい。実際、どこの館でもほぼチケットは売れているようで、「来年から参加を見直したい」というような声は聞こえて来ない。
- この地域は、“歴史”というテーマで、地域に根差したイベント「リレーイベント」を堂々とつくれるだけの“歴史的遺産”があることは有り難い。
- 今後は、地域の芸術家を発掘することも考えたい。
- ネットワーク化は、必然的になるべくしてなったと思うが、南広協(南河内地域広域行政推進協議会)が既に存在していたこと、発足当時の担当者の熱意も非常に大きかったと思う。

以上

平成9年度 南河内文化会館連絡協議会 予算

収入の部 (単位:円)

科目	9年度当初	8年度当初	増減	備考
1. 会費	400,000	400,000	0	8館×50,000円(館長会議)
2. 雑収入	1,000	1,000	0	預金利息等
3. 前期繰越金	94,047	174,689	-80,642	前年度繰越金
合計	495,047	575,689	-80,642	

支出の部

科目	9年度当初	8年度当初	増減	備考
1. 会議費	200,000	300,000	-100,000	館長及び主担者会議賄等
2. 事務費	50,000	60,000	-10,000	一般事務用消耗品等
3. 研修費	240,000	210,000	30,000	管外先進地視察及び研修会等
4. 雑費	5,047	5,689	-642	
合計	495,047	575,689	-80,642	

平成9年度 南河内文化会館連絡協議会(南文協リレーイベント) 予算

収入の部 (単位:円)

科目	9年度当初	8年度当初	増減	備考
1. 負担金	7,200,000	5,600,000	1,600,000	8館×900,000円
2. 雑収入	1,000	0	1,000	預金利息
3. 前期繰越金	2,366	1,331	1,035	前年度の繰越し金
合計	7,203,366	5,601,331	1,602,035	

支出の部 (単位:円)

科目	9年度当初	8年度当初	増減	備考
1. 制作費	3,600,000	2,450,000	1,150,000	講師料等 1館 450,000円
2. 広告宣伝費	2,074,800	2,060,000	14,800	ポスター、チラシ、チケット、プログラム等
3. 記録費	1,501,500	1,090,000	411,500	冊子制作費(8館)
4. 消耗品費	10,000	0	10,000	消耗品等
5. 租税公課	4,000	0	4,000	印紙代等
6. 雑費	13,066	1,331	11,735	その他
合計	7,203,366	5,601,331	1,602,035	

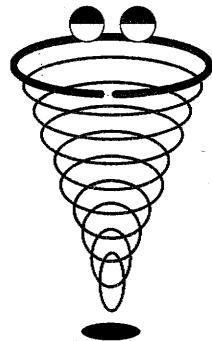
■リレーイベント各企画内容■

(平成29年5月6日現在)

会場名	公演日	時間	歴史講演	独自イベント	司会者	備考
藤井寺市民総合会館 別館中ホール (400席)	8月31日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「允恭(いんぎょう)天皇とその后(きさき)たち」 塚口森信(埼玉女子短期大学学長 文学博士)	(講演)「桜・梅・菊の古代日本人との関わり」 妻鹿加年雄(NHK番組「趣味の園芸」講師)	香月マキ	
羽曳野市民会館 (340席)	9月7日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「雄略天皇陵考」 堀田啓一(高野山大学教授)	(1)「羽曳野今昔(仮)」 難波利三(作家) (2)羽曳野太鼓と津軽三味線のひびき 和菜童子(竹田 傑・竹田直郎・北村敬明と市民)	香月マキ	
ラブリールホール (河内長野市・千早赤阪村)	9月14日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「蘇我・物部の乱と南河内」 作家 黒岩重吾	「南河内のうた」 (1)切音頭(太鼓おどり) 楠瀬会 (2)歌 岩井ゆき子 (3)やん丸節 岩井会	嶋田洋子	
太子町立万葉ホール (300席)	9月21日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「中国の石窟寺と鹿谷寺」 前園実知雄(奈良県立園原考古学研究所資料室室長)	「画面から飛び出た南河内の歴史」 桑原征平(関西テレビアナウンサー)	香月マキ	
美原町 (美原町役場別館3階)	9月28日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「古代の“みはら”を語る」 水野正好(奈良大学学長)	(講演)「文福のふるさとふれあい節」 桂文福(浮語家)	未定	
すばるホール (富田林市・河南町) (800席)	10月5日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「雷田林寺内町と石上露子」 脇田修(大阪大学名誉教授)	「露子をうたう」 テノール/中納俊夫(大阪芸術大学教授) ソプラノ/萩原美智子・宮本康子	鈴木澄代	
松原市文化会館 (610席)	10月12日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「屯倉(みやけ) 神社と天神信仰」 妻屋宏(屯倉神社宮司、元松原小学校校長)	「舞楽と河内音頭」 ・天王寺舞楽:天王寺楽所 雅亮会 ・河内ふるさと音頭:土田哲平、河内音頭三音会 他	鈴木澄代	
SAYAKAホール 小ホール (368席)	10月19日(日)	(開場) 13:30 (開演) 14:00	「子守唄が代弁する河内地方の女性史」 もず晴平 (作詞家/歌手) 大塚敦子(文化振興事業団理事) 証言者: (1) 松房由紀 (2) 酒野晶子	狭山伝説に芽吹く 創作パフォーマンス「五ツの石」 フランソワ舞踊部 山内恵子(振付・舞踊) ユウガ舞奏 古谷哲也(台本・作曲・語り・演奏) オカリナ奏者 井上サトル 他	河野穂富子	

リレーイベント 南河内歴史発見ショー

1997年8月31日(日)～10月19日(日)



1997

主催/南河内文化会館連絡協議会(略称=南文協)・南河内地域広域行政推進協議会(略称=南広協)
(富田林市・河内長野市・松原市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村・美原町)
この事業は、(財)大阪府市町村振興協会の助成を受けています。

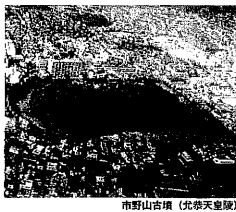
※シンボルマークの意味
このシンボルマークには水面から低がる波紋が10あり、南河内の10市町村を表します。仲良く肩を組み合ってお互いの上昇しようという意味が込められています。

8/31 午後2時始 **藤井寺市立市民総合会館 (別館 中ホール)**
☎0729-39-7020

【歴史講演】

「允恭天皇とその后たち—5世紀における王権の争奪—」

司会/香月マキ
歴史学者 塚口義信
「倭の五王」が活躍した5世紀は、「巨大古墳の世紀」ともいわれるように、日本の各地に巨大前方後円墳が築造され、王権がいちじるしく伸張した時代として知られています。ところが、「古事記」や「日本書紀」によると、この時代には王位継承をめぐる争いが相次いで勃発し、国内は騒然としていたと伝えられています。この講演では、藤井寺市に葬られたとされている允恭天皇(倭王)と二人のキサキ(忍坂大中庭とその妹の弟姫)をめぐる物語を手がかりに、5世紀代における王権の争奪の実態とその謎に迫ってみたいと思います。



市野山古墳(允恭天皇塚)

【講演】

「桜・梅・菊の古代日本人との関わり」

司会/香月マキ
NHK番組「趣味の園芸」講師 妻鹿加年雄
桜は農耕民族たる日本人の心のよりどころでした。その桜はどんな植物であったか、なぜ今日まで日本の花木を代表する植物なのかを考えます。梅や菊は日本の植物ではないのに、桜と並んで日本人の生活と切り離せない重要な植物なのはなぜなのかを、中国文明の日本への影響という視点から考えます。こうしたことを通して、觀賞植物というものの成立の背景と人との関わりの一端を覗き見てみようと思います。あわせて、各地で花と結びついた運動が盛んな折から、河内の自然植生と外国原産植物栽培の矛盾点・問題点にできるだけ迫ろうとします。



妻鹿加年雄

9/7 午後2時始 **羽曳野市市民会館**
☎0729-58-2311

【歴史講演】

「雄略天皇陵考」

司会/香月マキ
高野山大学教授 堀田啓一
第21代雄略天皇(尊称は大泊瀬功武尊)は近世以来、文献史家により「素戔嗚尊」の倭王武と見られる。倭王武は5世紀後半頃に活躍した大王で、古代国家形成上の画期をなす。また、重要な金石文資料も発見され、考古学・文献史学を融合した古代学的視点から、雄略天皇陵を中心にその謎に迫ってみたい。

【講演】

「羽曳野を彩る素晴らしき人々」

作家 難波利三
古代から近世まで、羽曳野にかかわりを持った歴史上の有名な人達を架空・実在を問わず、独断的にピックアップして、想像の翼を広げて、たどってみたい。合わせて彼らの今日的な意義にまで、踏み込んで考えられればと思います。



難波利三

【音楽】

「羽曳野太鼓と津軽三味線のひびき」

羽曳野市(竹田隆・竹田直郎・北村俊明)と市民
羽曳野市は、和楽器演奏では、国内はもとより、海外まで幅広く活躍している邦楽トリオで、太鼓三味線の強い響きとエネルギーは、日本の伝統音楽の持つ哀調と優美さをくまなく醸し出す和楽器にこそ期待ください。また、羽曳野太鼓は、古市太鼓と、不死囃子(しなずばやし)がブレンドされた式で合同演奏し、その後創作太鼓として、新しく結成し、初披露をするものです。



竹田 隆

9/14 午後2時始 **河内長野市 ラブリーホール(小)**
☎0721-56-6100

<このイベントには、千早赤阪村も参加しています>

【歴史講演】

「蘇我・物部の乱と南河内」

司会/嶋田洋子
作家 黒岩重吾
蘇我・物部ともに河内を基盤とする氏族であったが、巨大氏族に成長し、ついに6世紀末には衝突にいたる。この過程を作家黒岩重吾氏が、大きな視野、精密な論証、豊かな感受性をもとに考証される。このふたつの氏族について、特に蘇我氏については、その出自が謎とされているが、黒岩氏はその独自の史観から「蘇我=渡来人」説を立てておられる。「蘇我=渡来人」説の根拠を問うとともに、南河内とこの氏族の深い関係について触れていただく。



黒岩重吾

【音楽】

南河内のうた

切實(太鼓)：嶋田洋子 歌：岩井ゆき子 やんれ節：岩井会
河内長野には広い意味での河内音頭の中で、独自の音頭があります。ひとつは切實節で地元では太鼓おどりと云っており、仲々勇壮なものです。もうひとつはやんれ節で、これも独特の味を持っていますが、このふたつのユニークな音頭を嶋田洋子(なんせんかい)と岩井会の皆さんにお願いします。現代の河内音頭と比べながら聞いて頂くのも一興でしょう。この独特な河内音頭の合間にジャズ歌手岩井ゆき子さんが、南大阪で歌われていた古い歌を披露してくれます。「子守歌」「あらば歌」などですが、おそろく地元ではもう聞かなくなっているかも知れません。岩井さんはこういう古い歌を復元しようとする足で探して、歌っている方です。



岩井会

9/21 午後2時始 **太子町立万葉ホール**
☎0721-98-0300

【歴史講演】

「中国の石窟寺院と鹿谷寺」

司会/香月マキ
奈良国立歴史民俗学研究所資料室室長 前岡実知雄
インドが始まった石窟寺院の造営は、やがて誕生した仏教と共に、パミール高原を越えて、中央アジアの国々に伝播していった。シルクロードを経て、中国に入った仏教と石窟造営の風は各地で流行するが、なかでも敦煌、雲南、竜門などで南北朝から隋、唐代(4世紀後半-9世紀)に華開いた。中国の制度や文物とともに、仏教もまた遣唐使や留学僧達によって積極的に受け入れられた。しかし地理的、風土の相違から、中国であれば築かれた石窟寺院は、わが国では根付くことはなかった。その中で、鹿谷寺の石塔と仏像群は奈良時代の遺構としてその持つ意味は大きいといえる。



鹿谷寺

【講演】

「画面から飛び出た南河内の歴史」

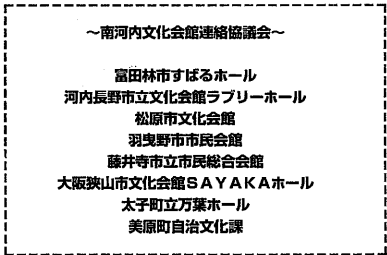
関西テレビアナウンサー 桑原征平
「土曜大好き18:30」「ノックは無用」等でお茶の間の人気を獲得した桑原征平氏が語る南河内の歴史。桑原征平氏は大学卒業後、2年間のサラリーマン時代を経て、新聞公営で関西テレビアナウンサー試験に合格し、アカプルコ死のダイビングやライオンとの格闘で「命知らずのアナウンサー」とよばれる異色アナウンサーとして活躍。関西テレビアナウンサーとして数々の特異な経験をし、また様々な人・文化・歴史を体感してきた経験から、南河内の歴史を現在の日本・南河内、また現在の暮らし・風潮・習慣と照らし合わせながら、「画面から飛び出た南河内の歴史」をテーマに語ります。



桑原征平

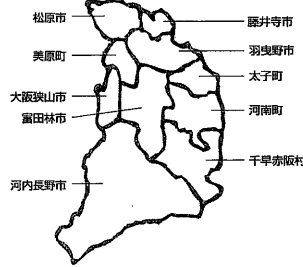
南河内文化会館連絡協議会について

南河内文化会館連絡協議会（略称＝南文協）は平成4年に設立されました。平成3年に策定された「ふれあいネットワーク計画」をもとに、これまで南河内地域の文化振興、文化会館同士の開催事業の調整等を活動の中心として参りました。平成7年度からは共同事業として「われらの郷土・南河内地域の再発見」をテーマに、今回のリレーイベントを企画しています。南河内は歴史の宝庫です。これらの宝物をなおざりにしておく手はありません。歴史をふりかき、歴史に学ぶだけでなく、歴史を楽しむゆとりをもってこそ「文化としての歴史」を享受することが可能になるものだと信じております。またこの共同事業は、これまで「南広協」が開催してきた「南河内再発見シンポジウム」を受け継ぐもので、「南文協」と「南広協」との共催となっております。



南河内地域広域行政推進協議会について

当協議会は、地理的、歴史的、行政的につながるの深い南河内地域の6市3町1村（富田林市・河内長野市・松原市・羽曳野市・藤井寺市・大阪狭山市・太子町・河南町・千早赤阪村・美原町）が広域的課題に取り組むために昭和55年に設けた協議会です。これまでに、「河内ふるさとのみち」整備事業や「ふれあいネットワーク」整備事業などに共同で取り組んできました。平成2年度に策定した第二次南河内地域広域行政圏計画において、圏域の将来像を「豊かな自然と歴史の中で、新しい都市文化が息づく「ふれあい創造の郷」みなみかわち」と設定し、圏域特性を活かした遊・憩・学の機能をもった圏域づくりを目指しています。

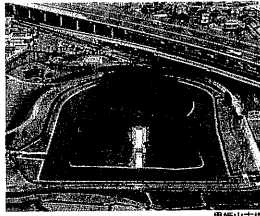


9/28 @ 午後2時始 美原町役場 (別館3階) ☎0723-61-1881

【歴史講演】

「古代の「みはら」を語る」

奈良大学学長 水野正好
美原にはすばらしい遺跡がある。ナウマン象を追う人々が作った石のナイフは1万5千年程前の生活を偲ばせる。堂々たる黒船山古墳は甲冑を死生者にそえた珍しい例。日本中に宣伝された古墳である。丹比・黒山古墳は壘をすばらしい瓦で飾った堂々たる古墳。河内と大和を結ぶ丹比道との関係も興味深い。美原を一層有名にするのは中世のこの地の銅物産業。梵鐘の様な大形品から鍋蓋の様な小物まで、実に色々な器物がこの地から各地へ出ている。梵鐘製作は一時独占的に作られ、後、各地に鋳工が進出していく。日本銅物産業の原産地は、まさにこの地であった。



【講演】

「文福のふるさとふれあい囃し」

落語家 桂文福

昔のなんば花月の楽屋口で、桂小文枝（現五代目文枝）師匠に「おいやん!! 弟子にしてええ。落語で、おもしろい。」と記詞の標準語で入門したのが、26年前。そして、私は今、全国各地で「落語で村（町）おこし」をテーマに「ふるさと寄席」を展開。「ふれあい、わきあいあい」をモットーに展開させてもっています。「南河内郡美原町」なんと美しいひびきでよう。歴史と文化の香りあふれ、皆が楽しく平等に暮らせるふるさと。「ここに住んで良かったな。」そんな声の響む街。今は「文福ふれあい囃し」と河内音頭、相模根曲の名（迷）調子で美原町を表現させていただきます。お楽しみに!!



司会/北 さおり

10/5 @ 午後2時始 富田林市 すばるホール ☎0721-25-0222

【歴史講演】

「富田林寺内町と石上露子」

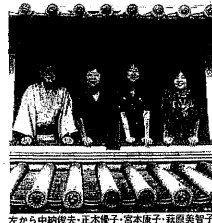
大阪大学名誉教授 脇田 修
石上露子、本名杉山孝。富田林創立八人衆の一人娘である。富田林は、戦国時代に興正寺寺内町として住民主導により創立された自治都市である。杉山家は代々庄屋を努め、大阪府下で有数の大地主として栄えた。露子は、歌人、大正三美人の一人といわれたが、旧家の一人娘ゆえに故郷に帰り、動乱の時代を生きて、戦後ひとりごとと亡くなった。その後、松村緑の研究、山崎豊子「花紋」がでていた。1950年代、私は調査に訪れて露子に信頼された。その面影を偲びながら、露子と富田林の歴史を語りたい。



【音楽】

「露子をうたう」

テノール/中嶋俊夫 ソプラノ/藤原美智子・宮本康子 ピアノ/正木優子
石上露子は、与謝野晶子とともに活躍した明星派の歌人でありながら、その作品は意外と知られていません。中でも、家督相続のために初恋の人と結ばれることができなかった切なさを表した「小板橋」は絶唱と表されています。今回は、その彼女の代表作「小板橋」と数編の短歌に、大阪芸術大学教授の千秋次郎氏により曲をつけていただき、声楽曲として紹介します。明治の南河内に生きた羨しくそして激しい女性の心情を、平成の南河内に生きる中納俊夫氏らが情熱的に歌い上げます。そして後半は、上方落語「骨つり」をオペラ風に特別アレンジした落語オペラ「ゆうれい女房」をお楽しみいただきます。



<このイベントには、河南町も参加しています>

司会/竹井智子

10/12 @ 午後2時始 松原市文化会館 ☎0723-36-5755

【歴史講演】

「屯倉神社と天神信仰」

屯倉神社宮司、元松原小学校校長 妻屋 宏
屯倉神社は江戸時代「三宅天満宮」といわれ、主祭神は菅原道真公をお祀りする天神様であります。「三宅天満宮縁起」によれば、道真公をお祀りする以前から「穂日の社」として菅家の祖神「天穂日命」を祀っていたようで、天慶5年（942年）天満大自在天神を祀ったとされています。なぜこの地で道真公をお祀りするようになったのか、「通りゃんせ通りゃんせ」はどここの細道じゃ 天神様の御道じゃ... 行きはよいよい帰りは怖い...」と歌われている天神様は、どういう神様が、天神信仰と人々の願いについて考えてみたいと思います。



【音楽】

「舞楽と河内音頭」

天王寺舞楽 雅楽会 河内ふるさと音頭：上田善平・河内音頭三音会 他
南河内に大きな足跡を残された聖徳太子と縁の深い四天王寺に伝承されてきた天王寺舞楽は、1976年に国の無形民俗文化財の指定を受けております。今回は、天王寺舞楽の歴史、発展した経緯、及び舞楽についての話を交えて3曲ほど舞楽を行います。河内音頭については、幾多の変遷を経て、今日に至っており、特に時代の流れと演者の感性が、大きく作用し独自の創造を生みだしていくおもしろさは、まさに河内音頭は、生まれている！と言わねばなりません。河内に住む人々が、土地に伝わる文化である河内音頭を守り、次の時代に伝えていく... そういふ方々に主演してもらい、唄い踊ります。



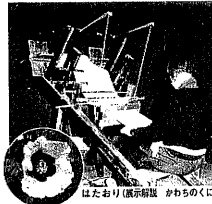
司会/竹井智子

10/19 @ 午後2時始 大阪狭山市 SAYAKAホール(小) ☎0723-65-8700

【歴史講演】

「子守唄が代弁する河内地方の女性史」

作詞家、(財)大阪狭山市文化振興事業団理事 もず唱平
証言者 松房由紀・酒野晶子
むかし、河内地方は木綿の産地として有名でした。その木綿を織るのは女性の仕事。また一方で、河内の女性は大阪の大家に出向いて、乳母として守として働き、船場の「ええし」のぼんぼんやいとんを育てたとも伝えられています。学生時代に子守唄を発掘し卒業論文にまで仕上げた松房由紀さん。河内木綿を今に伝える酒野晶子さんを証言者として、河内地方の文化に造詣の深い作詞家のもず唱平氏が河内地方の女性史を検証します。



【パフォーマンス】

狭山伝説に芽吹く創作パフォーマンス「五ツの石」

振付・舞踊：フラメンコ舞踊家 山内恵子
台本・作曲・語り・演奏：コンガ奏者 古谷哲也
オカリナ奏者 井上サトル 他
「五ツの石」の伝説は全国的に散在しています。村境に石をたて外部からの悪霊を防いだり、旅人の道標として残るもの、縁結び、子宝安産、子供の神、と地域により様々です。狭山では子宝安産の神。「五ツの石（五体）を並べて祈ると子宝に恵まれるという.....」パークションの第一人者古谷哲也が作詞作曲、山内恵子（フラメンコ舞踊家）の振付・舞踊、オカリナ奏者井上サトルによる創作パフォーマンスとしてお送りします。
台本協力：中井明子（大阪狭山市歌作詞者）



主催/南河内文化会館連絡協議会・南河内地域広域行政推進協議会

リレーイベント

南河内歴史発見ショウ

HALL MAP

8/31 SUN. 藤井寺市市民総合会館
☎0729-39-7020

市民総合会館(本館、別館)
藤井寺小
至八尾
至八尾・高槻
至河内長野
和歌山
近鉄南大阪線
近鉄南大阪線「藤井寺」駅下車 徒歩5分

9/7 SUN. 羽曳野市市民会館
☎0729-58-2311

市民会館
古小学校
至八尾
至柏原 至阿倍野橋 N
近鉄南大阪線
至富田林野内
近鉄南大阪線「古市」駅下車 東へ徒歩5分

9/28 SUN. 美原町役場
☎0723-61-1881

美原町役場
美原町中央公民館
船戸下
至あべの橋
近鉄南大阪線
至古市
至松原
近鉄河内松原線から近鉄バス「美原町役場西口」又は「美原町役場前」下車すぐ
南海初芝駅から南海バス「船戸下」下車5分

9/21 SUN. 太子町立万葉ホール
☎0721-98-0300

万葉ホール
太子町立後地
至八尾
至阿倍野橋
至香芝
至高槻
至古市
至羽曳野市
至松原
至香芝
至高槻
近鉄南大阪線
近鉄太子・高志駅から全剛バス「六枚橋」下車すぐ

9/14 SUN. ラブリーホール
☎0721-56-6100

ラブリーホール
南海高野線、近鉄長野線「河内長野」駅下車 徒歩7分

10/5 SUN. すばるホール
☎0721-25-0222

すばるホール
至河内長野・橋本
近鉄長野線川面駅
から徒歩5分
南海小金台駅 徒歩5分
バス停から徒歩5分

10/12 SUN. 松原市文化会館
☎0723-36-5755

文化会館
市役所
近鉄南大阪線
河内松原駅下車 徒歩15分
高見の里駅下車 徒歩7分

10/19 SUN. SAYAKAホール
☎0723-65-8700

SAYAKAホール
近鉄南大阪線
河内松原駅下車 徒歩7分

PERFORMANCE 創作パフォーマンス

狭山伝説に芽吹く創作パフォーマンス **五つの石**

狭山に伝わる「賽の石」の伝説をもとに、コガ奏者・古谷哲也が物語を創作。
ラテン・パーカッションの弾き語りと創作舞踊で綴るオリジナルパフォーマンス。

五つの石(五体)を並べて折ると
子宝に恵まれるという…
女の苦悩と男の後悔が胸を打つ

CAST
■振付・舞踊/山内恵子(フランクフルト舞踊家)
■台本・作曲・語り・演奏/古谷哲也(コガ奏者)
■演奏/井上サトル(オカリナ奏者) 他

リレーイベント
南河内歴史発見ショウ
SAYAKAホール(小)

日程/10月19日(日)
開場/1:30 開演/2:00
料金/500円(自由席・税込)

歴史講演 →
← 創作パフォーマンス

チケットのお求め・お問合せは
「SAYAKAホール」へ(火曜日は休館) ☎0723-65-8700

■受付時間 AM10:00~PM5:00

歴史講演 LECTURE

『子守唄が代弁する河内地方の女性史』

昔、河内は木綿の産地。その木綿を織るのは河内女の仕事、また、大阪の大家に出向いて、乳母として子守として働き、船場の「ええし」のぼんぼんやいとんを育てたとも……子守唄を発掘してきた松房由紀さん、河内木綿を今に伝える酒野晶子さんを証言者として、河内文化に造詣の深い作詞家、もず唱平氏が河内地方の女性史を検証します。

もず唱平(作詞家・中村実律子)
狭山文化振興事業(理事長)
【花街の母】全田たつえ
【大阪精話~うちと一緒になれんか~】中村実律子
他、多数を手懸ける